

区名：南区(白根図書館・月潟図書館)

区分	評価指標	平成21年度	平成22年度	対前年度比	図書館運営全体			
図書館運営	基本的サービス				自己評価		外部評価	
	資料購入費・決算数値(千円)	13,937	15,178	8.9%増	・貸出冊数が増加したのは、オンライン化の効果と考えられる。特に、暮らしに関する本が多く利用されているため、幅広い年齢層の利用増に貢献していると評価した。 ・オンライン化に伴い、貸出カードが市立図書館で統一されたため、新しいカードに切り替える人や、新規登録者が発生し、白根図書館と月潟図書館の登録者が増加した。		○しっかりした運営がされていて評価しています。 ○サービス量にくらべて職員数の少なさが問題だと感じています。 ○指標数値が上昇しており、図書館が利用者にとって活用されているのが分かります。 ○予算減の中でよくやっている。職員一人一人の意気込みが感じられ、大変評価しています。 ○いつも明るく、きれいで利用し易い図書館だと思います。 ○人が集まっている雰囲気があり、とても良い図書館だと思います。 ○机をもっと増やしてもらいたい。窓際のソファーのかわりに机を増やした方が良いと思います。	
	蔵書冊数(冊)	180,129	182,660	1.4%増				
	貸出冊数(点)	206,510	219,445	6.3%増				
	登録者数(人)	6,854	9,097	32.7%増				
	(内新規登録者数)	2,760	872	68.4%減				
区分	評価指標	平成21年度	目標値(平成22年度)	平成22年度	評点	評価(次年度への展開)		
施策・事業(オンライン各館を含む)	課題解決型図書館					自己評価	外部評価	
	レファレンス件数(件)	523	523	前年度並み	446	2	・レファレンスの件数増には一層の需要喚起が必要と考えている。 ・個人予約は白根で大幅に増加した。システム統合効果の象徴的数値である。	○件数の多少で評価すべきでないと思います。PR等の検討は必要です。 ○システム統合の成果がでており、大変評価しています。
	個人予約件数(件)	8,020	12,350	54%増	14,914	4		
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)	—	—	—	—	—		
	ホームページアクセス件数(件)	—	—	—	—	—		
	分権型図書館						自己評価	外部評価
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	6,028	6,028	前年度並み	6,185	3	・風関係、それも地元の風資料については入手が困難であった。 ・郷土資料は館内閲覧、コピー等の需要が多く、貸出冊数が目標に達していない。	○資料自体希少なようなので、検討して欲しい。 ○禁帯出の資料が多いので、貸出冊数が増加することは難しいと思います。
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	1,255	1,255	前年度並み	1,200	2		
	学・社・民融合型図書館						自己評価	外部評価
	児童書の貸出冊数(冊)	62,141	62,548	0.65%増	70,948	4	・「おはなしのじかん」等日ごろの地道な努力により、何とか前年度水準を維持したが、更なる増加には何か企てが必要だと思う。 ・各館では、子ども・親子向け企画を積極的に取り組んでいる。 ・ぶれジョブも含め、積極的に受入れを行っている。 ・派遣要請には極力対応しているが、この人数が限界かと思う。	○親子連れの来館が多くなったと感じます。 ○小・中学生は学校、学校図書室を利用していると思われる。利用増には工夫も必要だと思います。 ○親子事業を楽しみにしている利用者も多いです。 ○貸出冊数に左右されることなく、「いつでもおいで下さい。」という図書館を目指して欲しいと思います。 ○職員の出前授業は、貸出冊数増加の要因となっています。ぜひ継続をお願いします。
	小中学生への貸出冊数(冊)	31,216	31,216	前年度並み	31,800	3		
	子ども・親子対象事業の参加者数(人)	854	854	前年度並み	1,206	4		
	職場体験受入人数(人)	21	21	前年度並み	27	4		
	講師等としての派遣職員数(人)	77	77	前年度並み	87	3		
	パートナーシップ型図書館						自己評価	外部評価
	図書館事業のボランティア活動者数(人)	144	144	前年度並み	231	4	・ボランティアは大幅な増加となり、連携した取組をおこなっていきたい。 ・友の会に加え、地元団体の交流の機会を設定することが課題と考えている。 ・共催事業は、ほぼ前年並みに取り組んだ。	○ボランティア増は評価します。パートナーシップ図書館としてうまくいっていると思います。 ○南区全体のボランティア研修を開催して欲しい。 ○共催事業は回数で評価するより、質(内容)にこだわって欲しい。
	ボランティア団体交流会参加者数(人)	4	4	前年度並み	6	4		
	利用者懇談会の開催回数(回)	—	—	—	—	—		
	共催事業の実施回数(回)	16	16	前年度並み	15	2		
	運営(職員)						自己評価	外部評価
	研修参加職員数(人)	14	14	前年度並み	19	4	・勤務を調整し、研修には積極的な参加を心がけている。	○少人数で業務をこなしている職員に「ご苦労さん」と言いたい。どんどん研修を積んで業務に活かして欲しい。

※施策・事業の評点は1:目標値を大きく下回った 2:目標値を少し下回った 3:目標どおり達成 4:目標値を上回って達成  
 ※教育ビジョン:市教育委員会が策定した指針、組織目標:新潟市が実施している組織ごとの行政評価